

令和8年3月4日

読谷村議会  
議長 上地 利枝子 殿

読谷村議会議員  
神谷 嘉栄 印

## 一般質問通告書

第551回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第61条第2項の規定により通告いたします。

質問要旨	答弁を求める者
<p>1 基幹作物であるさとうきび産業の将来性について</p> <p>(1) 沖縄本島唯一の製糖工場であるゆがふ製糖の施設建て替え費用を巡る協議で、去る1月22日までに関係する26市町村が県の提示した負担額に合意したとのこと。</p> <p>ア 各市町村の負担額は、どのように算定されたのか。</p> <p>イ 去る1月13日には県さとうきび農業協同組合が設立されたようだが、新農協の果たす役割について本村との関連性も含めて伺う。</p> <p>(2) 昨年11月28日に農林水産省が発表した2025年の「農林業センサス」(速報値)によると、自営農業を主な仕事とする「基幹的農業従事者」が、沖縄県は9,839人で、前回2020年の調査から3,449人減少し、25.9%の下げ幅だったとのこと。本村において、さとうきびに限定した場合の農家戸数と平均年齢及び、生産面積に生産量を2015年・2020年・2025年それぞれに求める。</p>	
<p>2 令和8年度施政方針より</p> <p>(1) 『ちむ清らさあるひとの学び育ち』の中で、「沖縄語(しまくとぅば)の保存継承につきましては、気軽に沖縄語に親しめるよう、ウェブサイトでのデータベースの拡充を進めるとともに、学校や地域と連携した講座を展開するほか、展示、広報活動を実施し、本村の沖縄語普及に努めてまいります。また、令和7年度に発刊した『読谷村しまくとぅば辞典』を基礎資料として、読谷村史「言語編」の編さんに取り組んでまいります。」とあった。</p>	

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>ア 沖縄語の保存継承において、どのような形で学校や地域と連携し講座を展開していく予定なのか伺う。</p> <p>イ 読谷村史「言語編」編さんの取り組みについて、発刊までの期間等も含めて、その計画内容を概略で求める。</p> <p>(2) 『御真人や笑い誇て健康の村』の中で、「認知症サポーター養成講座における対象を令和8年度からは、地域の担い手である子どもたちまで広げ、認知症への正しい理解を促す」という旨だったが、対象となる子どもたちについて伺う。</p> <p>(3) 『御真人や笑い誇て健康の村』の中で、「本人が望む医療や介護等について、大切なご家族や支援者と話し合う『人生会議』の普及・啓発に努めてまいります。」という旨だったが、『人生会議』自体は、どのような形で行う予定なのか伺う。</p> <p>(4) 『御真人や笑い誇て健康の村』の中で、「地域における相談支援の中核的な役割を担う機関として『読谷村障がい者（児）基幹相談支援センター』を設置し支援体制の強化を図ります。」という旨だったが、予想される具体例も含めて、同センターの説明を求める。</p>	
<p>3 去る2月26日の町村議会議員研修にて、沖縄県企画部市町村課課長より、「市町村行財政等の状況」の講話があった。その資料の中で、「市町村の行政サービスのあり方を持続可能なものにしていくため、具体的な課題の整理・対応のあり方の検討を行う。」旨のことが記されていた。そして、その団体は8市町村で構成されており、本村も町村会推薦で名があったが、その検討会における内容を伺う。</p>	
<p>4 県や沖縄気象台は、去る1月24日に「地域の力で守る未来～新しい防災気象情報と共に～」と題して防災気象講演会が開かれ、今年5月下旬から運用が開始されるという新たな防災気象情報の解説があったようだが、本村職員の参加もあったのか。もし、あったのであればその内容説明を求める。</p>	
<p>5 災害関連死は、被災や避難生活による心身の負担が原因で亡くなるということで、その際、遺族には最大で500万円の災害弔慰金が支給されるということを経済的支援や医療的支援の審査を経て、市町村が認定する仕組みのようだが、現在本県では、那覇市を除く40市町村が沖縄県市町村総合事務組合で共同処理しているという。それが、来月（4月）には、全国で沖縄を含め2県だけになるようである。</p> <p>沖縄県は2024年9月に「支給決定までに時間がかかる」などとして各市町村が業務を担うよう要請したとのことであるが、今後、本村独自で取り組む計画はあるのか伺う。</p>	